

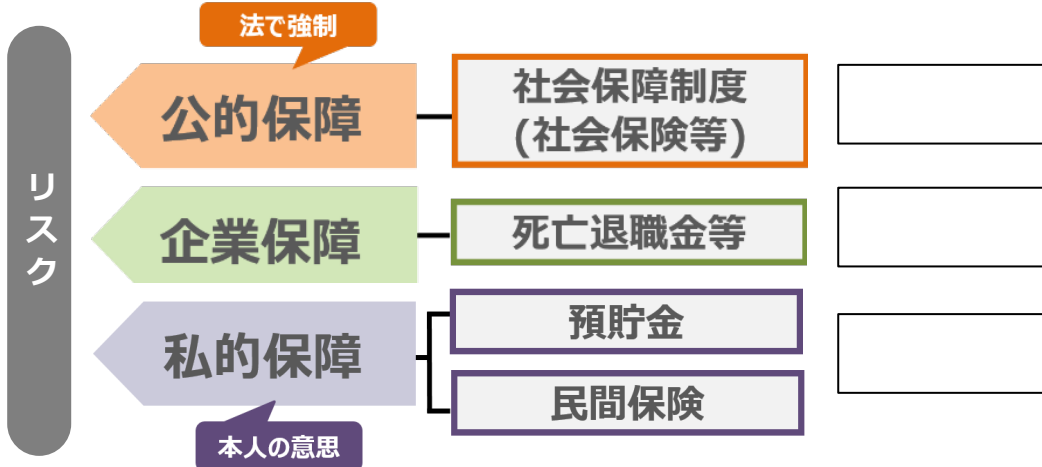
年 組 番 名前

1. リスクへの備え

[1] リスクとは何か

リスクとは、 で、起きるとお金がかかること。

[2] リスクに備える3つの保障 ※保障：もしものときに生活を守るもの



[3] 社会保障制度の概要

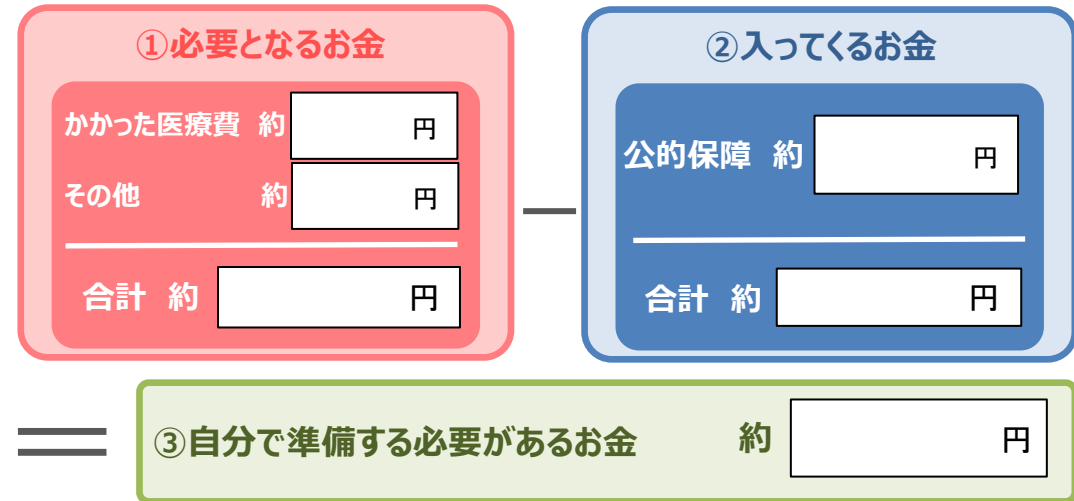
制度	主な保障の内容
社会保険 1. 公的医療保険	<input type="text"/> や <input type="text"/> にかかる治療費
2. 公的年金保険	老後 <input type="text"/> 状態時 } の生活費など
3. 公的介護保険	<input type="text"/> 費用 (訪問介護など)
4. 労働者災害補償保険	<input type="text"/> のケガ等の治療費
5. 雇用保険	<input type="text"/> 時の生活費

2. もしもリスクが起きてしまったら・・・

[1] 事例① 足の事例で骨折し、手術・入院が必要になったら

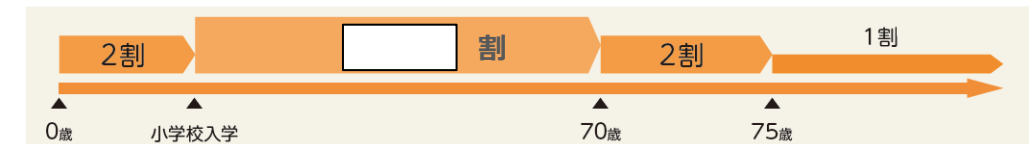
Aさん（23歳）は、友人とスノーボードをしているときに、足をひねる状態で転倒し、大ケガを負いました。レントゲン検査の結果、ねじったように骨折しており、翌日手術を行いました。そして22日目には無事退院をすることができました。このとき、医療費などはいくらかかったでしょうか。

どんなことにお金がかかるか考えてみよう



[2] 公的医療保険

年齢による自己負担の割合



医療費の自己負担額が高額な場合は「高額療養費制度」が活用できる。

[3] 事例② もしも、亡くなってしまったら

Bさんは今年45歳。妻(42歳)はパート勤務(年収130万円)、長女(10歳)・長男(8歳)がいます。現在の生活費は月約29万円、家は持家です。

(1)「何」に「いくら」かかるか考えてみよう

(2)必要なお金はどうやって準備するか考えてみよう

①必要となるお金

生活費	約	<input type="text"/>	円
子どもの教育費	約	<input type="text"/>	円
その他	約	<input type="text"/>	円
合計	約	<input type="text"/>	円

②入ってくるお金

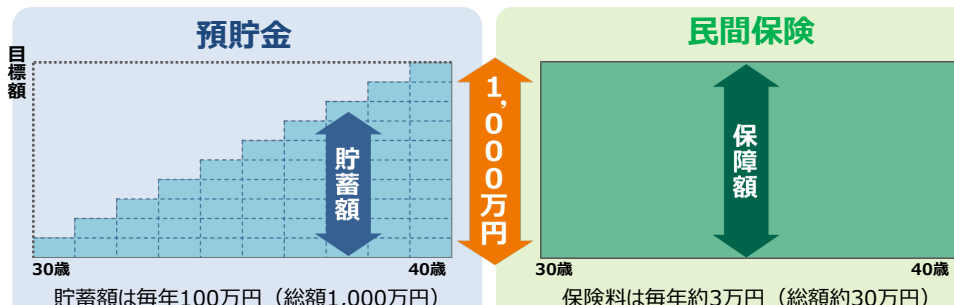
公的保障	約	<input type="text"/>	円
企業保障	約	<input type="text"/>	円
妻の収入	約	<input type="text"/>	円
合計	約	<input type="text"/>	円

③自分で準備する必要があるお金

約 円

3. 自分で準備する「私的保障」

[1] 預貯金と民間保険



特徴 目的のために貯める

メリット
 ○貯めたお金は自由に使うことができる。
 ○途中で引き出しや貯めるペースが自由。
 ○預けた金額に応じて利子がつく。

デメリット
 ●途中で病気やケガ等、リスクが発生した場合に、 金額が貯まっているとは限らない。

特徴 の損失に備える

○途中で病気やケガ等のリスクが発生した場合に、あらかじめ 金額を受け取ることができる。

●保険の種類によっては解約しても支払った保険料の全額が戻ってこない。

[2] 生命保険と損害保険

	生命保険	損害保険
対象	<input type="text"/>	<input type="text"/>
受取額	あらかじめ約束した金額(定額保障)	事故により発生した損害額(実損填補) ^{てんぽ}
備えられるリスク	●万一(死亡) ●病気・ケガ ●老後 ●介護 など	●交通事故 ●火事 ●台風や地震 など

4. まとめ

- ①リスクに対して3つの保障手段で備えることができる。
- ② と企業保障で不足する部分を で補う。
- ③ と にはそれぞれ特徴があり、使い分ける必要がある。
- ④家族構成や年齢などによって、身の回りにあるリスクは異なる。状況に応じて を考えよう。

今日学んだことや気づいたことについて書いてみよう
